

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	5-(3)-イ	豊かな心とたくましい体を育む教育の推進	施策	② 幼児児童生徒の基礎的な体力の向上及び健康・安全教育の推進
			施策の小項目名	○健康教育の推進
主な取組	歯科保健推進事業			
対応する主な課題	②本県の児童生徒の体力・運動能力については、低下傾向に歯止めはかかっているものの、相対的には全国平均を下回っていることや、子どもたちの欠食率が全国と比べて高い傾向にあるほか、高校生の交通事故件数が300件程度で推移しているなど、子どもたちの健康・安全面等において課題があることから、生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う、健康・安全教育、運動・スポーツ活動等の充実を図る必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
80歳で自分の歯を20本以上保つという「8020運動」に関する普及啓発を行い、県民の歯科保健意識の向上を図ることにより、健康おきなわ21における歯の健康分野の目標達成を目指し、県民の生活の質の向上を図る。						
実施主体		県、市町村				
担当部課【連絡先】		保健医療部健康長寿課 【098-866-2209】				
		保育所、認定こども園、幼稚園、小学校、中学校でのフッ化物応用推進				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況							(単位：千円)			
予算事業名 歯科保健推進事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
各省計上	直接実施	5,167	11,190	7,186	7,028	7,377	7,355	各省計上	○R元年度：①歯科口腔保健推進協議会の開催②フッ化物応用推進事業③歯周病予防事業④口腔ケア推進事業⑤かかりつけ歯科医推進事業 ○R2年度：①歯科口腔保健推進協議会の開催②フッ化物応用推進事業③歯周病予防事業④口腔ケア推進事業⑤かかりつけ歯科医推進事業	
予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画	
主な財源	実施方法	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算額	R元年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○R元年度：	
									○R2年度：	

様式1(主な取組)

活動指標名	保育所、幼稚園等でのフッ化物洗口実施支援				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	25回	26回	20回	30回	34回	—	100.0%	7,377	順調	<p>活動概要</p> <p>乳幼児期から高齢期まで各ライフステージに応じた歯科保健対策を推進するため、むし歯予防でフッ化物実施拡大支援事業、歯周病予防の講話に関する講話、口腔ケア研修会や講話を実施し、健康な歯を保持することについて県民の歯科保健意識の向上につながった。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>今年度初めて11月を「歯科口腔啓発月間」を設け、イベントをとおして普及啓発した。むし歯予防に効果的なフッ化物洗口に関して歯科医師会と連携し、安全性や効果について啓発した。</p>
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村等へ科学的根拠に基づいたむし歯予防法や先駆的に実施している事例について研修会を通して啓発するとともに教育庁等を委員とする会議等で情報を共有する。</li> </ul>						<ul style="list-style-type: none"> <li>市町村職員、保育施設、学校関係者へ歯みがき、甘味制限、フッ化物応用に関する研修会を開催した。</li> <li>教育庁や教育関係者を委員とする沖縄県歯科口腔保健推進協議会において情報共有を行った。</li> </ul>				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証 (Check)

#### (1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

##### ○内部要因

・幼稚園や学校でのフッ化物洗口に関して、安全性を疑問視する声や職員の業務負担という意見があり、浸透していない状況にある。

##### ○外部環境の変化

・幼児及び児童生徒のむし歯は年々減少傾向にあるが、他府県に及ばず、全国ワーストの状況である。

#### (2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・フッ化物洗口の実施施設を増やし、むし歯予防を推進するために、歯科医師会、市町村(教育委員会)等関係機関と連携協力する必要がある。

### 4 取組の改善案 (Action)

- ・フッ化物洗口など、科学的根拠に基づいたむし歯予防法や先駆的に実施し、効果を出している事例を組み込んだ研修会を開催する。
- ・関係機関を委員とする会議等で、歯科保健の現状・対策等について共有し、連携を深める。
- ・「歯と口の健康週間」、「歯科口腔啓発月間(歯〜がんじゅう月間)」で県民の歯科保健の課題に沿った内容の講演会やイベントを開催する。